

	発言要旨	市のコメント	担当課
1	重症心身障がい児の短期入所施設等について	花巻市近隣に、重心の方々が利用できるような医療ケアの整った短期入所施設を設置してほしい。できれば花巻病院移転後のサービスとして、レスパイト入院等を充実させていきたい。また、学齢期の重症児が利用できる医療ケアの整った放課後等デイサービス事業所を増やしてほしい。	障がい福祉課 地域医療対策室
2	日中一時支援事業の報酬単価の見直しについて	高等部卒業後の夕方支援についてニーズが高まっている。放デイを利用してきた方々にとっては、通所の事業所を降所後の16時から18時までの限られた時間ではあるが引き続き支援が必要である。市町村事業である日中一時支援事業は報酬単価が安く、運営が成り立たない為、受け入れてくれる事業所が少ないのが現実である。途切れない支援という意味からも、花巻市としても必要性を認め、報酬単価の見直しを検討していただきたい。	障がい福祉課
3	緊急時の介護家族に代わる支援サービスについて	介護家族に突発的な何かがあった際、介護家族に代わって本人を支援してもらえるような仕組みをお願いしたい。（緊急時に対応してくれるコールセンター的なところで、短期入所、ヘルパー派遣、訪問看護、レスパイト入院などのサービスに繋げてくれるような機能を持ったところ）	障がい福祉課
4	地域生活支援拠点等の整備にかかる市の対応について	国は「障害者の高齢化・重度化や「親亡き後」も見据えつつ、障害児・者の地域生活支援をさらに推進する観点から、地域生活支援拠点整備の方針を打ち出したが、具体的にはなかなか進んでいない。花巻市としてはどのような方向で考えているのか教えていただきたい。	障がい福祉課

	発言要旨		市のコメント	担当課
5	東和コミュニティセンターに代わる活動施設について	東和コミセンの廃止に伴い、気軽に集える場が無くなり困っている。新たな場所での復活をお願いしたい。	現在、東和町コミセンを休止している。新しいコミュニティセンターの建設に向けて、基本構想委員会を立ち上げ協議を進めている。一昨年実施したアンケートによると「気軽に集まれる場所がなくなり、寂しい」という声が多く聞かれた。PTAから「子どもが待っている場所がない」という意見も出ている。市民の意見を踏まえながら、新しい施設の基本構想を検討していく。育成会で「ほっとほっと」を、自前で資金を調達して開設していただいている。新しい施設に、憩いの場となる設備を設置するかどうか東和荘とも検討しており、今後は、構想委員会の中でも検討していきたい。(東和総合支所地域振興課長)	東和総合支所地域振興課
6	公共交通における療育手帳所有者への対応について	以前、会員からの声で、東和地区を走行するバスを利用した際に、療育手帳を使って半額になる制度を使わせてくれない運転手さんがいたので、どのような基準で行っているのか、全てのバスで半額になると言うことなら、改めて徹底していただきたい。	東和地域での路線バスについて、市営バス5路線のほかに、岩手県交通が運行している土沢線がある。療育手帳をお持ちの方の運賃について、いずれの路線についても手帳を提示すれば、料金が半額になることが規則で決まっている。このことについて、これからも各事業所に徹底していきたい。(都市政策課長)	都市政策課
7	障がい者への理解について	息子がワークまほろばに通っており、施設ではとても楽しそうにしているが、所詮、箱の中という感じがする。一般社会の人から見ると、何をやっているんだという壁がある。それをどうにかして、障がい者のことを理解してほしい。障がい者の活動場所が施設の外にあることによって、それを皆に見てもらうことができる。今までの「ほっとほっと」はそういう場であり、継続して行ってほしい。世の中の人々が障がい者のことを理解していないと、相模原市のような事件が起こり、重度の障がい者は世の中にはいないという思想につながりかねないことから、障がい者を理解してもらうためにも、障がい者が外に出る場がほしい。		障がい福祉課
8	障がい者の活動場所について	花巻支部でも20年間「ふれあいポケットわたぼうし」の運営を、市民に理解してもらいたいという考えから会員がボランティアで行っている。その近くではこぶし苑が頑張って活動している。市民の理解が非常に大きい。障がい者本人は、声を掛けられることで喜びを感じる。東和・石鳥谷・大迫地域にも障がい者が活動できる場が皆と生活していくうえでは必要だと思う。		障がい福祉課
9	障がい者のスポーツ振興について	昨年度の秋から、ふれあいランドでバトミントン教室の指導を行っており、障がい者が競技をしている。障がい者の男性が一般の人と一緒に、北上での大会に出たいと申し出たが断られた。そこで、花巻での大会に出ることになり、すごく喜んでた。花巻市でも障がい者がどんどんスポーツに挑戦できるようにしていただきたい。		スポーツ振興課
10	障がい者の施設の受け入れについて	子どもがイハートブ養育センターこすもすを利用しているが、4月から新しくなるということで、とても楽しみにしている。施設が定員でいっぱいになり、十分に利用できないことが出てくと思う。学校に通っているうちは、毎日の活動することで、生活のリズムができていくが学校を卒業すると毎日通える場所がなくなり、生活のリズムが崩れて、頑張ろうという気持ちが後退してしまう子や、動く機会が減ることで身体的な機能が落ちてしまう子どもがたくさんいる。一日中家庭で見るとなるとすごく大変なところがあるので、卒業後も、活動できる場所がほしい。身体的なケアに関してイーハートブ養育センターでも始めていくということをお聞きした。十分に対応できない部分は、老人施設で利用できるようにしたり、障がい者が様々な施設で利用や活動ができるようになれば良いと思う。障がい者だから障がい者の施設、老人だから老人施設というように区切らず、いろいろと利用できるようになればありがたい。	施設の必要性については認識している。費用や運営の問題などがあるため、時間をかけて検討していく必要がある。(市長) 介護施設への入所について、県で重症の心身障がい児を受け入れている施設を調査し始めている。県とも連携しながら、地域の拠点も含め、市内の事業所と話し合いながら、短期入所の方にも対応できるよう検討していきたい。(健康福祉部長)	障がい福祉課

	発言要旨	市のコメント	担当課	
11	障がい者へのサービスにかかるとパンフレットの見直しについて	息子が清風支援学校の一年生、娘がイーハトーブ養育センターに通っている。周りのお母さんたちが、手帳を持っていても年代によってニーズが違うという話をしている。市から配布されるパンフレットでの利用できるサービスの一覧は分かりづらい。未就学児の場合は保育園関係に関するサービス、小学校では放課後デイなど詳しい説明が載っていないので、サービスや助成に関して知らずにいるのが現状である。パンフレットには、年代別に利用できるサービスを分かりやすく掲載してほしい。	パンフレットについて、独自の支援がまとまって載っているものがないので、作成していかねばならない。(市長) 障がい者が利用できるパンフレットには、障がい区分に基づいて、受けられる制度などを掲載している。障がいの程度に応じた早見表の他に、年代別のものを掲載できるように工夫したい。(健康福祉部長) 障がい者のサービスが分かりにくいという指摘があったことから、市で作成している暮らしのしおりのガイドブックについても見直ししたいと思う。 こども課で作成している子育てガイドブックにも障がい児のページがあるが、それについても利用できるサービスが分かりやすいように見直ししたい。(障がい福祉課長)	障がい福祉課
12	花巻市の救急医療体制について	息子が癲癇の持病をもっているためよく発作を起こすため救急車を呼ぶことがあるが、どこに搬送されるかというほとんどが中部病院である。自宅が湯口のため中部病院に行くには30分以上かかる。もっと早く病院に着いて処置ができればよいと思っている。総合花巻病院でも、このような重症な患者への救急対応ができれば安心して生活ができると思う。	総合花巻病院の構想に約2年半かかっている。この間には、総合花巻病院や県内の医療関係者、県外の大学の先生等の方々と花巻市の医療体制について話し合いを行ってきた。国の制度として、包括地域医療構想を花巻市では一昨年9月に策定した。国の医療構想を見ると、拠点病院に高度医療機能を置き、急性期病院は拠点病院に集中するという考え方で、回復期の患者は他の病院が面倒をみるという形となっている。岩手県では、三次救急は岩手医科大学のみとなっているが、新しく矢巾に平成31年春頃にできる予定。二次救急は、中部病院となっている。花巻病院でも救急医療体制をとっているが、高度な医療が必要な部位については受け入れていない。花巻病院では、高度な医療を担う医大と中部病院と連携を取りながら地域に必要な医療を提供するという構想であるが、必要な小児科医を確保して小児科病床をすぐに置くという状況ではない。その中で癲癇の発作を起こしたお子さんを救急患者として受け入れることができることとなるか現時点ではわからない。(市長)	地域医療対策室
13	障がい者向けのグループホームについて	障がい者も親も高齢になってきている。札幌では、一生をその場で過ごす障がい者のグループホームがあると伺っている。これからは、障がい者も高齢化していくので高齢者のグループホームも考えていく必要があると思っている。自分たちでも情報収集したいと思うが、市からも情報提供をお願いしたい。		障がい福祉課
14	学童支援員への救急救命指導について	東和児童クラブ主体の講演会で、子どもが癲癇の持病があるため痙攣で倒れた際に、学童の支援員が対応できなかった。救急救命指導の徹底をお願いしたい。		こども課
15	市長との懇談会について	手をつなぐ育成会として、市にお願いするだけでなく、我々もやるべきことはやっていきたい。今後も市長さんとの懇談をとて楽しみにしている。声を聞いていただける機会を続けていきたいので、よろしく願いたい。	直接お話することができ、大変良い機会となった。当市では花巻、大迫、石鳥谷、東和の各地域で議会開催月を除き毎月「市長との対話」を開催し市民から意見をいただく機会を設けているので、そのような機会も利用いただきたい。福祉関係は関連する法律が膨大で難しく、市職員も大変だが頑張っていることをご理解いただきながら話し合いを進めていただきたい。先ほど意見があったパンフレットについてなど改善してほしい要望があればぜひ届けていただきたい。(市長)	地域づくり課 障がい福祉課